

1. 人員体制

(1) 診療放射線技師6名で業務を遂行し、主な業務は一般撮影、CT、MRI、骨密度測定、造影透視で、救急外来に対しても24時間の対応をおこなった。また健診において胃透視、マンモグラフィなどをおこなった。

2. 2019年度の活動

(2) 放射線機器について

老朽化に伴い2月にX線透視装置の機器選定をおこなった。透視装置は健診業務でも使用しており、質の高い検査の実施と費用とのバランスを熟慮した。2020年6月頃に更新予定である。今後も老朽化に伴う診療への影響を最小限に防ぐため、機器の状況把握と情報共有をメーカーも含めて徹底する。また、計画的な更新を関係部署と情報を共有し効率的に行っていく。

(2) 技術連携について

済生会熊本病院中央放射線部と定期的に意見や情報の交換をおこない、連携強化に努めてきた。特に診療に関する技術の面では研修などを通して、多くを習得することができ検査の質の向上につなげることができた。次年度も必要に応じた情報交換や研修を継続していく。また、機器の更新や保守においても連携や情報の交換を継続していく。

(3) 放射線管理体制の構築

- ①法令の一部改正がありそれに準じて、放射線被ばく管理規定の作成、放射線管理委員会の設置、研修会を実施した。実際の運用は2020年4月からである。
- ②CT検査において被ばく線量管理が実施できるように準備をおこなった。
- ③CT検査実施に関して患者への説明と同意に関しての手順を作成し、診療部や医事室と協力しながら運用を構築した。(2020年4月より実施)

(4) 職場環境について

ストレスの少ない働きやすい部署を目指し、活発なコミュニケーションを心がけ、ワークライフバランスの充実を図った。突発的な休暇に関しても各員でフォローできるような体制、また教育を実施し連携して業務を遂行した。また有給休暇の取得や当直業務についても適宜検討をし、現況に適合したシステム作りをおこなった。

3. 今後の課題と展望

(1) 遠隔画像診断を導入予定である。スムーズに実施できるようにシステムを構築する。また導入によりCT・MR

I検査の増加に繋げていく。現在おこなっているレポート入力サポートは継続していき、読影レポート作成率向上に寄与していきたい。診療部への負担軽減や検査件数増加に繋がればと考える。

(2) 放射線被ばく管理に関する院内向け教育の実施

放射線被ばくに関する情報を院内へ発信し、放射線検査に対する意識を高め、放射線被ばくについての啓蒙をおこなっていく。研修会の内容などもしっかり検討し、安心安全な検査の提供を実施していきたい。

